

我が国でのラウンドアバウト導入に向けた検討

道路研究部 道路研究室 主任研究官 小林 寛 研究官 今田 勝昭

部外研究員 中野 達也 (室長 (博士(学術))) 高宮 進

(キーワード) 平面交差の制御方式、ラウンドアバウト



1.

安全・安心の確保

1. はじめに

現行の平面交差点においては、出会い頭の事故や右折車対直進車の事故の発生など、未だ安全性に問題を抱えるケースがある。また、交通量の少ない信号交差点においては、交差車両がない中での無駄な信号待ちなど、円滑性に支障を来している状況も見られる。これらの問題に対して、欧米諸国ではラウンドアバウト交差点の導入が積極的に進められている。さらに、災害時に信号制御が必要ない平面交差方式として、東日本大震災の被災地においてもラウンドアバウトが注目されている。ここでは、我が国におけるラウンドアバウトの導入に向けた検討状況について紹介する。

2. ラウンドアバウトの概要

ラウンドアバウトとは、円形交差点のうち、一方通行の環道交通流に優先権があり、かつ環道交通流は信号や一時停止などにより中断されない平面交差の制御方式であり、写真1のように、各地で整備が進められつつある。



写真1 整備事例(茨城県日立市)

3. これまでの取り組み状況

国土交通省道路局では、「ラウンドアバウト検討

委員会」¹⁾を設置し、平成25年9月に第1回委員会を開催した。委員会は、我が国の道路特性や交通状況等を踏まえつつ、ラウンドアバウトの整備が相応しい交差点の特性など、ラウンドアバウトの整備における技術的な課題について専門の見地から検討することを目的としている。また、平成24年度には、長野県軽井沢町において、道路局の社会実験の支援により、6枝の無信号交差点からラウンドアバウトへの改良が行われている。さらに、平成25年度には、静岡県焼津市、滋賀県守山市において、同社会実験の支援により、4枝の無信号交差点からラウンドアバウトへの改良が行われる。

上記の動きと連携し、国総研では、設計基準案の作成を目的とし、交通流シミュレータや試験走路での走行調査(写真2)などにより、ラウンドアバウトの適用条件の設定や設計方法の構築に関する研究を行っている。



写真2 試験走路における走行調査の様子

【参考】

1) ラウンドアバウト検討委員会

<http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/roundabout/index.html>